

平成28年度 第2回美術館セミナー

- | | | |
|---|-----|--------------------------------|
| 1 | 日 時 | 平成28年10月22日（土） 9:55～17:00 |
| 2 | 場 所 | 茨城県近代美術館 地階講座室 |
| 3 | 参加者 | 県内の幼稚園，小学校，中学校，高等学校の教員，一般（42名） |
| 4 | 講 師 | 深堀隆介氏（美術作家） |

5 活動内容



- | | |
|-------------|------------------|
| 9:30～9:55 | 受付（地階講堂前） |
| 9:55～10:00 | 諸連絡 |
| 10:00～11:00 | 講義「素材としてのアクリル樹脂」 |
| 11:00～12:00 | 実技（前半） |
| 12:00～13:30 | 昼食・館内自由鑑賞 |
| 13:30～16:30 | 実技（後半） |
| 16:30～17:00 | 諸連絡，アンケート記入 |

【講義】



【講師作品，画像をもとに説明をしている様子】

講座が始まる前には，実際にお持ちいただいた講師作品を見せてくださいました。生きているような金魚の絵に参加者は驚いた様子でした。

2000年のスランプ時にそれまで7年間粗末に飼っていた金魚に初めて魅了されて以降，金魚の絵をかき始めたこと（講師曰く，「金魚救い」と呼んでいる。）や器の中に樹脂を流し込み，その上にアクリル絵の具で直接金魚を描くという独自の技法を試みたことなどを画像とともに説明してくださいました。

【実技】



【解説中】

① ジェルワックスの流し込み

樹脂の代わりにキャンドルジェルワックス（イタリア製，500ml 約1,200円）を使用しています。講師が実際に使用している樹脂は，乾くまでに2～3日かかるため，キャンドルジェルワックスで疑似体験しました。

まず，枡に慣らすため薄くジェルを流し，ドライヤーで乾かした後，絵を描き込みます。立体的になるようにひれから描くといいとアドバイスがありました。金魚の底にあたる部分がどようになってい



【一人一人に丁寧なアドバイス】

るのか、参加者は悪戦苦闘している様子でした。

② 金魚の絵を描き込む

金魚→ジェル→金魚→ジェルとミルフィーユ状態に描き込みます。参加者は、ジェルを流し込む手際がだんだんと慣れてきているようでした。



【ジェルの流し込み①】



【ジェルの流し込み②】



【アクリル絵の具で描き込んでいる様子①】



【アクリル絵の具で描き込んでいる様子②】

参加者からは、「MRIのように輪切りに想像するのが意外と難しいが、出来上がってくると立体的に見えるので嬉しい。」「初めてのことなので、面白い。」など参加してよかったという内容の感想を聞くことができました。

【鑑賞会】



【鑑賞会の様子】

参加者の作品はどれも力作でした。自分以外の作品にも見入っていました。今にも動き出しそうな作品が出来上がり、参加者はとても満足した様子でした。

6 その他

アンケートの中には、「自分の筆を持ってくればよかった。」との意見がありました。基本的には材料道具は美術館が準備していますが、個人持ちのものもあっていいのではないかと感じ、道具の点検とともに今後の参考にしようと思います。